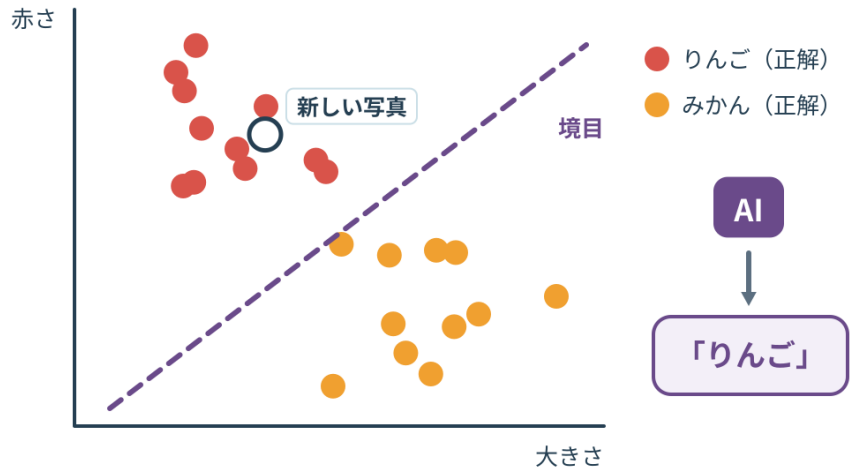
分類と回帰（「どれか」と「どれくらい」の予測）

AIの予測は、何を当てるかで、どのように分かれるのだろう

分類　「どれか」を当てる

例：果物の写真がりんごか、みかんか（架空）

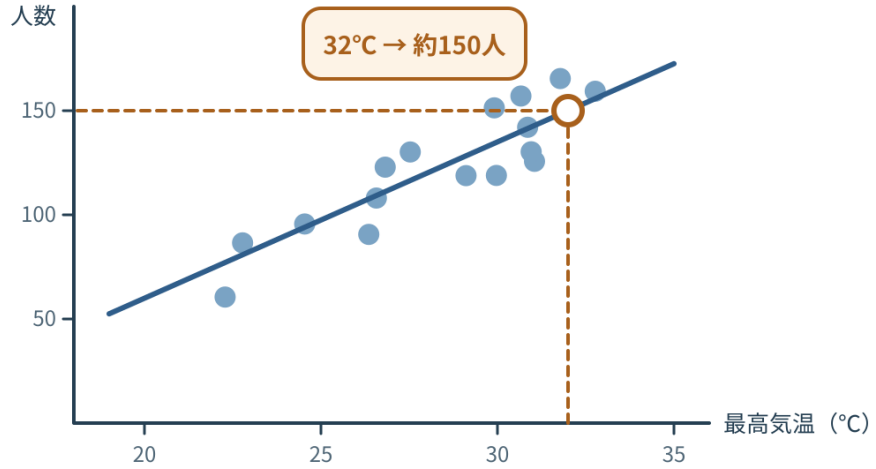


答えは、選択肢のどれか

方法の例：近傍法、決定木

回帰　「どれくらい」を当てる

例：最高気温と、かき氷の店に来た人数（架空）



答えは、数の大きさ

方法の例：重回帰分析

身近な例　分類：迷惑メールかどうか、写真に写っている動物の種類

回帰：あしたの売り上げの金額、電車の到着までの時間

問い方で変わる　あしたの最高気温は何℃まで上がるか → 回帰　　あしたの最高気温は今日より高いか低いか → 分類

どちらも教師あり学習：正解の付いた訓練データから学び、訓練データとは別のテストデータで確かめる

※ データは架空。点と直線は説明のための模式。